

# 台風シーズン真ただ中! 水害に対する備えは万全ですか?

2010年は日本列島が梅雨に入った頃から、各地で大規模な水害が発生しました。

特に7月10日から西日本を中心に広い範囲で大雨による水害が発生しました。

山口県で7月10日からの大雨で浸水家屋が1,457棟、福岡県で7月11日からの大雨で浸水家屋が549棟、広島県で7月12日からの大雨で浸水家屋が643棟、岐阜県で7月15日からの大雨で518棟の浸水家屋の被害がありました。

(参考資料:各県の災害情報等の発表より)

栃木県内では7月30日に、気象庁の黒磯観測所で1時間の降雨量が89mmにのぼり、観測記録(観測開始1974年～)を更新しました。台風が直撃すれば、さらに広域にわたっての被災も想定されます。普段から洪水や土砂災害に備えましょう。

## 洪水被害を防ぐためには地域の連携が重要です

常陸河川国道事務所では出水時には水位予測を行い、水防警報や気象台と共同で洪水予報を発表しています。これらの情報は、水防管理団体(市町村、水防事務組合等)が行う河川巡視や土のう積などの水防活動に活用されています。出水による被害を軽減するためには、地域の皆様ひとりひとりが防災意識を高めることが大切です。

被災時に復旧の役割を担っているのは地域の建設会社です。常陸河川国道事務所では、河川管理施設(堤防や水門など)が被災したときに建設機械や資材、労力の確保により災害の拡大防止、早期復旧を行うために、建設会社と災害時における応急復旧に関する協定を締結しています。

協会会社一覧(栃木県内)

(株)福島組、富士越建設(株)、鈴木建設(株)、矢澤建設(株)、(株)荒川建設、渡邊建設(株)

## 那珂川流域での過去の水害

### 昭和61年(24年前)／台風10号による水害



茂木町下砂田地区の様子

フィリピン東方沖で発生した台風10号は8月4日に本州の南方海上に達し、静岡県の南の海上で温帯低気圧になりました。5日未明にかけて房総半島を縦断し、進行速度がきわめて遅くなり、5日早朝には福島県沖を通過。被害の大きかった茂木町では総雨量が320mmを超えました。また茂木町以外でも、那須烏山市や那珂川町、真岡市・益子町・市貝町でも大きな被害をもたらしました。栃木県内で死者6名、全半壊・一部破損家屋は211棟、浸水家屋6,678棟、被害総額519億円を超える大災害となりました。

### 忘れられない水害

クエートオ 玲子さん(茂木町)

自宅前の電柱に貼ってある黄色いテープ。その位置は、私の身長より20センチ近くも高い位置です。昭和61年の水害の時、濁流はあそこまできました。私たちは比較的早い時間に避難しました。8月4日の夜。しかし水はすでに股下あたりまで来ていました。家族で避難する際に近所の方々に声をかけました。2階がある家では必死で荷物を、上に運んでいるところでした。避難所には次々に町の方が避難してきました。比較的高い位置にあった町民センターでしたが、一番水が出たときは、後ちよとで1階が冠水してしまう所でした。

8月5日のお昼近く、やっと水が引いたので自宅に戻りました。家の中は一面ドロだらけ。水は天井近くまで来ていたようでした。近所の平屋に住んでいたお婆さんは屋根に避難し、一晚過ごしたとのことでした。みんなで無事だったことを喜び、励ましあって後片付けをしました。

水害の後に生まれた世代が20歳を超えました。つらい災害、そしてそれを乗り越えた人々の絆をかたりつぐことが大切だと思うこのごろです。



私の身長より高いところまで水が溢れました。

### 平成10年(12年前)／台風4号による水害



那須町寺子地区JR東北本線余笹川高架橋の様子

本州付近に停滞していた前線が、動きの遅い台風4号により刺激を受け、8月26日～31日にかけて栃木県北部を中心に記録的な大雨が降りました。那珂川上流の支流余笹川近辺の大沢観測所では総雨量1,091mmを観測。また、1時間当たりの雨量は最大で103mmと、猛烈な雨量を記録しました。那珂川流域を含む栃木県内では死者・行方不明者7名、全半壊・一部破損家屋は129棟、浸水家屋2,848棟、被害総額945億円を超える大災害となりました。

### 被災した当時を振り返ると

菊池 忠治さん(那須町)

夜が明け始めた午前4時頃。「余笹川の水が溢れそうだから避難をするから」と、近所の方から電話がありました。私も妻も起きていて、すぐ外の様子を確認すると自宅の庭が膝下あたりまで水であふれていて、急ぎ東側の高台に避難をしました。家族みんなが徒歩で避難をし、一息ついたときに仏壇に位牌がそのままだったのに気づきました。慌てて高台から降りてきましたが、家の周りは腰のあたりまで水が溢れており、諦めて避難していた場所に戻りました。それから間もなく近所の家が基礎から流れ下川橋にぶつかり粉々になりました。幸いにも私の家は流されませんでした。水が引いた後の後片付けはとて大変でした。ご先祖様の位牌が無事だったのがせめてもの救いでした。今でも、強い雨が続くといふ最近のこのように思い出しますね。



このあたりまで水があがってきました。

# 台風がやってくるその前に

ハザードマップには、町の中の危険箇所や避難場所、雨量・水位情報の入手方法など、洪水時に必要な様々な情報が記載されています。

あなたの町や通勤・通学している地域のハザードマップを確認し、非常時に備えましょう。

[国土交通省]ハザードマップポータルサイト  
<http://www1.gsi.go.jp/geowww/disapotal/>

洪水ハザードマップは河川管理者(国や県)の洪水はん濫計算をもとに各市町村が作成しています。

洪水ハザードマップに記載されている主な情報




資料提供:那須町

## 非常時の持ち出し品を準備しておきましょう

**非常持ち出し品**

- ・携帯用飲料水・食品(カップ麺、缶詰、ビスケット、チョコレートなど)
- ・救急用品(消毒ガーゼ、傷口用の消毒液、包帯、絆創膏、体温計、常備薬、はさみ、ピンセット等)
- ・貴重品・軍手・懐中電灯・毛布・携帯ラジオ・電池
- ・衣類(下着、セーター、ジャンパー類)・マッチ・ろうそく・ウェットティッシュ…など



年に1回は消費期限等のチェックを行い、いつでも使用できる状態にしておきましょう。参考資料:消防庁「わたしの防災サバイバル手帳」より

## 災害時の情報の入手方法

### 栃木県の土砂災害警報情報の入手方法

パソコンアドレス [http://www.dif.pref.tochigi.lg.jp/dosya\\_keikai/](http://www.dif.pref.tochigi.lg.jp/dosya_keikai/)  
携帯電話アドレス [http://www.dif.pref.tochigi.lg.jp/dosya\\_keikai/m](http://www.dif.pref.tochigi.lg.jp/dosya_keikai/m)  
栃木県内の土砂災害の情報を見ることができます

常陸河川国道事務所テレフォンサービス(雨量・水位情報)  
**TEL.0294-73-1012** (那珂川)

### 那珂川の雨量・水位情報(常陸河川国道事務所HP内インターネットアドレス)

パソコンアドレス <http://www.ktr.mlit.go.jp/hitachi/kasen/kasen-data/uryou/index.htm>  
携帯電話アドレス <http://i.river.go.jp>

バーコード読み取り機能のある携帯電話なら  
こちらからでもご覧いただけます。



## 洪水時の円滑な避難のために

洪水が発生しても落ち着いて行動がとれるように、日頃からの備えをしておくとともに、避難時の心得を確認しておきましょう。

### 日頃からの準備

- 1 洪水ハザードマップで避難場所を予め確認しておきましょう。
- 2 避難場所まで実際に歩いてみましょう。
- 3 普段から家族や地域で避難時の行動について話しあっておきましょう。
- 4 非常時に持ち出すものを準備しておきましょう。



### 避難時の心得

- 1 最新の気象情報や災害情報を収集し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。
- 2 役所・役場や消防署から避難の呼びかけがあったら、速やかに避難しましょう。
- 3 避難する時は動きやすい服装とし、単独行動は避けましょう。

## 常陸河川国道事務所では災害に備えて日常から点検や維持管理を行っています

### 堤防除草

堤防の損傷や洪水時の漏水などの異常を早期に発見できるように、また堤防の強度を維持するため除草を行っています。

### 河川巡視

堤防や護岸などに異常がないかを確認したり、洪水時に水の流れを阻害するような、違法な工作物の設置や不法投棄が行われないように巡視をしています。



堤防を機械で除草している様子

### 河川構造物の保守点検

河川の水位が上昇した際に水門やポンプ場などの河川構造物が機能を十分に発揮できるように保守点検を定期的に行っています。

### 観測施設の保守点検、データの常時監視

河川の水位や雨量を常時収集するために、観測機器の保守点検を行っています。これらのデータをもとに洪水予測を行い、水防警報や気象台と共同で発表する洪水予報などに活用しています。

～“いざ”という時に備えて～

### 水防訓練等の実施

自治体や協定会社と共同で水防訓練や災害対策用機械(排水ポンプ車等)の操作訓練を実施し、出水に備えています。



漏水対策である「月の輪」工法を実施

### 流域の自治体との連携

出水時に注意すべき堤防危険箇所などを確認するための合同巡視や水防工法の指導などを水防管理団体(市町村、水防事務組合等)と行っています。また災害時に情報を正確かつ迅速に提供するために流域自治体との連絡体制を整備しています。

～災害時に活躍する災害対策用機械～

### 災害対策本部車

災害発生時に現地対策本部として応急対策の指揮、連絡、情報提供等を円滑に実施します。



災害対策本部車



衛星通信車

### 照明車

災害現場などで、夜間照明として安全に復旧作業等を行うために必要な車両です。



照明車



排水ポンプ車

### 衛星通信車

災害現場の映像を衛星を経由して災害対策本部に伝送し、被災状況などを把握するために使用します。

### 排水ポンプ車

市街地や道路に溢れた水を汲み上げ、河川に排水します。

久慈川・那珂川において、洪水による被害から地域を守り、地域の方々が安全・安心な川として親しめるように、堤防整備、河川管理や水防活動支援など様々な業務を行っています。

国土交通省 関東地方整備局 **常陸河川国道事務所** TEL.029-240-4061(代)

〒310-0851 茨城県水戸市 千波町1962-2

<http://www.ktr.mlit.go.jp/hitachi/>